

第20回 与謝野晶子短歌文学賞

一般部門 篠弘選

選者賞

コンビニは夜の海中水族館若者するりとドアに吞まれる

和歌山県橋本市 浦木 逸子

灯のともるガラス張りのコンビニ。「海中水族館」という喩が適切で、深夜は若者がうようよする。また一人が呑み込まれてゆく時間を捉え、作者もその後から紛れ入り、共に水槽の中で泳ぎたくなるような衝動を覚える。

秀逸

隅っこが好きな男が他にゐて今日は彼奴が止り木にゐる

金沢市 前川 久宜

しばしば夜半に入るスナックバー。常連の席は概ねさだまる。いつもの隅を陣取れなかった友人を哀れみ、その止り木の隣に坐つて、話し相手にでもなつてやろうかと思ふ作者か。「彼奴^{かやつ}」という蔑称に親しみがこもる。

秀逸

嫁ぐ朝照れて挨拶せざりしを六十の娘に未だ言う父

堺市西区 奥田 まゆみ

嫁に行く娘に、でれでれとして照れ、何も言うべきことが言えなかった父、そのことを幾度も嘆く父。またしても話題になり、父の優しさを慈しむ一首。「六十の娘」が効果的。すこやかであつて欲しいと希む気分が滲む。

秀逸

ケイタイに最後の願ひと子の無心オレオレ詐欺ねと妻は苦笑す

山形県上市市 佐藤 みのる

家族詠の多いなかで、目下の世相が反映される魅力。「オレオレ詐欺」がアイロニーをもつ。息子と妻とのやりとりを目撃しながら、作者も微笑する瞬間が如実にうかがわれて嬉しい。こうしたユーモアを尊重したい。

【入選】

やわらかきモーツアルトのしらべ聴く冬の日だまり二人を包む

福岡県筑後市 加藤 三知乎

若者の特権でない迷うこと年老いてさえあるものであり

京都市伏見区 辻井 章雄

けあらしを裂きて漁船の出でゆけり忘るることのあらざる海へ

福岡市東区 能塚 節男

若草の萌ゆる牧場のうたごゑをホルンにのせて風わたりくる

青森県八戸市 木立 徹

土耕す力のいよよ弱りたるや老兄の大根曲りて届く

京都府宇治市 奥田 君子

教へたる信号違えず曲がるかと理髪店主は我を見守る

東京都足立区 鷺沼 あかね

海峡の夜の対岸観覧車蜘蛛の巣のごと緑に光る

高松市 菰刈 昭

前を行く男が捨てしタバコの火有るか無きかの風に勢ふ

東京都府中市 広田 滯子

湯に浮かぶ柚子を裸身の胸元に寄せて抱きて今生きてゐる

岐阜県高山市 倉坪 芳江

猪を追う犬の鳴き声遠くにと聞きて椎茸の櫓木を起こす

大分県竹田市 佐藤 政俊

羽化終へし蝶のやうなる身軽さに一輪車に少女は角を曲れり

佐賀市 空閑 敦子

雪の日のベランダに来て餌を拾ふすめごの今朝六羽となりぬ

宮城県石巻市 大和 昭彦

起こされた夜半の雨のあましづく数えるうちに眠りに落ちぬ

松山市 園部 淳

深々とわが痩せ畑を鋤き起しアandes産の馬鈴薯植える

徳島県阿南市 小畑 定弘

しじゃないMだと選んだ試着室ズボンのサイズは腹囲が決める

沖縄県糸満市 平良 宗子

慕ひつつわれは言葉にせざりしを彼はすばりと心を奪ふ

宮崎市 赤崎 敏子

あたたかき秋日のそそぐ庭に座し大豆殻打ち合ふわが父母は

茨城県日立市 高須 美智子

血圧の上下激しき年となり底に釘あるブーツ選びぬ

福島県二本松市 吉田 竹子

労力を使はずなり来る家仕事ドライヤーにふくらふくるる布団

東京都世田谷区 庄野 史子

素枯れたる紫陽花の幹とつとつと速志のごとき青芽をたたす

山口県岩国市 浜村 英子

寒き朝バス停に立つ我が前を速度落としてタクシーの過ぐ

和歌山市 谷口 静香

アニー・ローリー聴きつつ夕餉の仕度する芋も大根もほどよく煮えて

福井市 片岡 なおこ

梅花藻の花の水辺に降り立ちて清しき水を手に掬ふ君

兵庫県新温泉町 安田 多加子

裏窓に陽が廻りこむ午後三時良妻賢母のわたしはゐない

山口県岩国市 木村 桂子

被災地で生れし苺はパックにて整列したり喜び満ちぬ

宮城県大和町 織田 壽

前例を踏襲するなど訓示あり五十路いそじとなりて我は良しとす

兵庫県新温泉町 西村 徹

部屋半分ベッドが占めて不思議なる安堵感あり病室に似て

東京都中野区 水吉 きよ子

紫のうろこ並べて夕空を泳ぐ鰯の群見上げおり

東京都狛江市 本田 淑子

孫子らと共に住みたる寂しさは雑踏を行く孤独に似たり

兵庫県芦屋市 中島 富美子

パレットは卵のパック群青を十色に分け春山描く

大分県杵築市 阿部 尚子

行き先はいつも海まで亡夫と見るあかねさす日に包まれたくて

和歌山市 榎本 紀子

満月の魚眼レンズにとらえられ狗尾草と我が影ゆれる

京都府城陽市 鳥本 純平

発電の白き風車の並び立つ野に脚太き馬のいなく

大阪府吹田市 前田 文乃

播きし人逝きてしまへり隣畑青き春菜は日を溜めてをり

福井県小浜市 杉崎 康代

嬌声と言ふには遠くケアハウス媼ら朝よりカルタ楽しむ

岡山県津山市 桑田 正志

湯けむりに肢体伸びやかなわが少女常には見せぬ優しさを持つ

奈良県大和高田市 葛本 幸永

バレーボールの選手だったと自慢する母のてのひら大きくやはい

仙台市泉区 白井 美沙子

障るとて桜老樹の伐られたり時はたやすく失われゆく

神奈川県鎌倉市 遠藤 初恵

手術終へ明くる朝あしたに許されて飲む阿蘇山の水のすずしさ

長崎市 山下 久美子

農のひとら頑固なれども寄り合へば幼馴染のこどもとなりぬ

和歌山市 阿部 有

別れ来て木枯しの駅に降り立てばバスの尾灯の赤さ目に滲しむ

埼玉県入間市 岡田 光舟

白と黒のネクタイ二つ壁にかけ午前と午後の式に備える

埼玉県飯能市 青木 啓充

食べること何より好きな老い母の胃瘻の手術に印押す吾か

福島市 児玉 正敏

風花の舞いゐる軌跡目で追へば交響曲のタクトあるごと

金沢市 梅 満智子

「むらさきに見ゆ」と節たかしの詠みし筑波日がな一日靄に静もる

東京都三鷹市 志賀 朋子

赤き灯をともして衛星よぎりゆくきさらぎの夜を星にまぎれず

福岡県久留米市 堀江 英毅

雪もよい灯油屋の車いつもより曲高々と流しつゝ来る

大阪市平野区 宮崎 富子

ハイタッチした瞬間に我が心見抜くが如く笑い出す君

東京都杉並区 高橋 秀

同行をうながす息子にきつぱりとこの地を護ると不動を示す

千葉県習志野市 關口 佳子

トローチの穴に舌先あそばせて胸の疼きをあいまいにする

奈良県天理市 川北 昭代

頬張れば生きる力の湧き出づるブロッコリーの青のたしかさ

山口県防府市 木原 純子

あますなく山寺照らす皓月にひと夜をかけて桜ちるなり

長野市 丸田 正夫

わが笛の「朧月夜」に歌ふなり音楽療法に集ふ友らは

東京都港区 菅谷 禮子

心境の変化と言ひて部屋中のアイドルポスター子は剥がしゐる

川崎市中原区 大平 真理子

螢火のごとき受話器の小さき灯に見守^{まも}られ眠るひとりの夜を

岡山県新見市 植木 泰子

凍て空に双手突きあげ挙り立つメタセコイアはしんと日を吸ふ

静岡県藤枝市 杉本 弘子

その巨漢に似合わず甥は江戸切子の一輪挿しを手土産に来る

川崎市麻生区 岩崎 幸子

いづくまで運ばれゆかん風のむた柿の落葉は乾びて速し

島根県出雲市 金山 黎子

公開の寺々巡るひとり旅花見小路に雪の花舞ふ

神奈川県座間市 蓮見 孝子

丸太小屋に絵本を読めば園児らの二十の瞳われに吸ひつく

福岡県大牟田市 猿渡 紀美子

公園の遊具の巡りこまやかに除染してゐぬ茶髪の若きら

福島県相馬市 新明 悦子

永雨降る夕べの道をすたすたについてくる者止まれば消える

宮崎県西都市 間 清隆

甘酒を鍋に移して温めるその間にマラソン二人追ひ抜く

熊本市中央区 佐渡 京子

一日の仕事終わりし集落の人みな乗せて通夜へ行くバス

富山県南砺市 雪村 山女

学生に戻りしように持ち物を確かめ母はデイの車待つ

山梨県笛吹市 鈴木 敏文

難しき再就職に挑むべく真白きシャツにアイロンかける

広島県福山市 石川 茂樹

みほとけの涅槃のすがたの山並が春は女体に乳房ふくらむ

大分市 宮武 千津子

がらがらを振りては舐めて投げだして乳子はひと日ひと日伸びゆく

北海道旭川市 香月 千代子

改修し明るき校舎にまた一つ空き教室のふえたる寂しさ

山形県酒田市 村上 秀夫

一面の魯田ふきくる風にのりジョガーの汗が一瞬におう

茨城県大子町 高梨 とし

半年も帰省せぬ娘の歯ブラシとわが歯ブラシがハの字に立てり

東京都東久留米市 杉本 眞理子

イベントの一つのような明るさに子ら語りいる我の葬儀を

和歌山県橋本市 赤坂 文代

和箏筥の下敷になりし阪神の地震は今も夢に出で来る

鳥取市 河合 かずえ

優しくは強くなければできぬなり弱きは人の顔見て変わる

奈良市 三浦 淳子

母の好きな蕎麦ぼうろひとつ又ひとつ意識なき母を看取りつつ食む

山口県岩国市 藤本 征子

石露の花に照らされ月のない石道かえる爪先ひかる

京都市左京区 福西 直美

葉脈のごとき皺ある海みえて高度下げゆくわが飛行機は

東京都文京区 矢澤 靖江

満月を窓に見し夕夜半過ぎて白き螢のごとく降る雪

兵庫県西宮市 小田部 桂子